

非造影 MR 血管撮影/灌流画像による靭帯付着部炎の画像評価 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2023 年3月3日) ～ 2025 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

非造影 MR 血管撮影/灌流画像による、乾癬及びその他の付着部炎をきたす疾患群における靭帯付着部炎の活動性評価、治療効果判定効果について

〔研究目的〕

これまで造影剤を使用した MRI で評価を行っていた早期の乾癬性関節炎やその他の付着部炎疾患群の診断、治療効果判定を造影剤を使用しない MRI 灌流画像でどの程度代替可能かどうかを評価します。

〔研究意義〕

ガドリニウム MRI 造影剤は頻度は低いですが、副作用を生じます。ただし、早期の炎症の存在を診断するためには感度の高さから、これまで造影 MRI を撮影することが一般的でした。乾癬及びその他の付着部炎をきたす疾患群(SAPHO 症候群、強直性脊椎炎等)では、骨の靭帯等付着部に炎症を来し、炎症や骨びらんにより、関節癒合による可動域障害、変形を生じ、患者さんの予後や活動性に大きく影響します。早期の画像診断により適切に治療介入を行うことで後遺症のリスクを軽減することが可能です。これらのことから、造影剤を使わずに早期の画像診断により適切な治療につなげてゆく方法(非造影 MR 血管撮影/灌流画像)の効果を検討します。

〔対象・研究方法〕

乾癬性関節炎/脊椎炎の診断にて造影 MRI を撮影した患者さん 30 例及び、年齢性別、部位をマッチングさせた変形性関節症患者さん 30 例に対して、造影される領域について、痛みのある部位や動きの評価、骨の異常の有無とともに、造影剤を使用しない MR 灌流画像での異常信号の有無、程度について放射線科読影専門医が判定を行い、どの程度相関性があるかを検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

画像を含むすべての患者様の情報は個人が特定されないように情報を加工して取り扱われます。終了後、データは帝京大学臨床研究センターにて 10 年保管後廃棄します。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：放射線科学講座 講師 山本麻子

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211 （代表）〔内線 7568〕